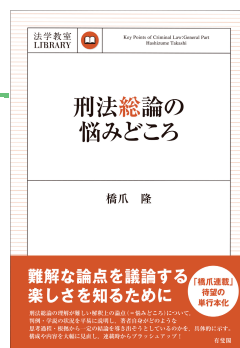


刑法総論の悩みどころ

橋爪 隆

2020年3月発売／488頁／本体3200円＋税
A5判／並製



編集
担当者
から

法学教室 2014 年 4 月号～2016 年 3 月号掲載の「橋爪連載」総論、待望の単行本化です。連載中から、「非常に分かりやすい」、「理解できなかった点が解決した」、「必要なことがすべて書いてある」といったご意見をいただきました。これは、刑法総論を学ぶ上での「悩みどころ」について、「判例・学説の状況をできる限り平易に説明した上で、なぜ、そのような問題が生ずるのか、そして、私自身が、どのような思考過程をたどって、また、どのような根拠に基づいて、一定の結論を導き出そうとしているのかを、具体的に示すことに努めた」先生の意図が、読者の方々に十分理解していただけたからだと思います。

単行本化にあたり、全体の構成や表現を大幅にブラッシュアップして、先生ご自身の問題意識や考え方の筋道が、より分かりやすくなるように配慮されています。

『各論』の刊行も、ご期待ください。各論は、「ビジターカラー」でいきますよ！（五島）

Index



判例・学説・文献などの情報が豊富で、刑法総論の理解にしっかりと役立ちます。

- 第 1 章 危険の現実化としての因果関係
- 第 2 章 実行行為の意義について
- 第 3 章 不作為犯の成立要件について
- 第 4 章 正当防衛状況の判断について
- 第 5 章 過剰防衛の成否について
- 第 6 章 誤想過剰防衛をめぐる問題
- 第 7 章 事実の錯誤について
- 第 8 章 遅すぎた構成要件実現・早すぎた構成要件実現
- 第 9 章 過失犯の構造について
- 第 10 章 過失犯における結果回避義務の判断について
- 第 11 章 「原因において自由な行為」について
- 第 12 章 実行の着手について
- 第 13 章 共同正犯の構造(1)——共犯としての共同正犯
- 第 14 章 共同正犯の構造(2)——正犯としての共同正犯
- 第 15 章 共犯関係の解消について
- 第 16 章 承継的共犯について
- 第 17 章 共同正犯と正当防衛・過剰防衛
- 第 18 章 不作為と共犯をめぐる問題
- 第 19 章 包括一罪の意義について